



国境の島の国際交流

朝鮮通信使を掘り起こした対馬市の試み

講師：阿比留 正臣氏 (対馬市 観光交流商工課)

古来より日本列島と朝鮮半島の間で交流の橋渡しの役割を果たしてきた対馬ですが、飛行機が行き交い、日本と韓国の多くの都市が直に結ばれるようになるにつれ、一時の影響力が弱まったようにも思われます。しかし、近年、「国境の島」として再び活発な国際交流が試みられてきています。韓国からの観光客を積極的に受け入れ、また室町時代・江戸時代の日韓交流である朝鮮通信使は対馬が担ってきたことから、これらを中心に据えたイベントを大々的に始めました。さらにはユネスコ世界記憶遺産登録を視野に、活動を拡大しています。今回は、対馬市の試みから国際交流の新たな可能性について学んでいきましょう。

日時：2015年 **6月12日** (金)

14:50 ~ 16:20 (4限)

場所：神田外語大学 7号館 2階

クリスタルホール

司会：林 史樹 先生

(アジア言語学科 韓国語専攻 教授)

※ 事前申し込み不要

講師略歴

1967年、長崎県対馬生まれ。長崎東高校卒業後、峰町(後に近隣6町が対馬市として合併)に入庁。長崎県ソウル事務所勤務を経て、2011年から対馬市国際交流担当。朝鮮通信使行列振興会のほか、朝鮮通信使緑地連絡協議会事務局を兼任。現在、対馬市観光交流商工課課長補佐。2014年から朝鮮通信使ユネスコ記憶遺産日本推進部会事務局長。



神田外語大学 グローバル・コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 1-4-1 TEL/FAX: 043-273-2324 E-mail: gci@kanda.kuis.ac.jp